

提 出 課 題

京都市美術館常設展の音声ガイドコンテンツ制作業務の選定に係り、以下の作品について、記載の解説文章を参考に、別紙解答書に音声解説原稿（日本語及び英語）を作成し、提出してください。

【課題：上村松園「待月」】



●上村松園「待月」について

「すらりとした後ろ姿の美しい女性が、月が出るのを待っている。あえて月を描かず、月を連想させる図様を作品中に登場させている。帯には波兔文様、団扇にあしらわれた虫食銀杏雪輪文は欠けた満月を思わせ、これから出てくる月を暗示している。女性は黒い紗の着物とその下に紅白の菱繫ぎ紋の襦袢を着ており、袖口からわずかに見える赤色が艶かしい。簪などの髪飾りも女性らしく華やかである。また後ろ姿であることが女性を神秘的に見せ、観る方の想像力も刺激する。画面下の柳の葉は没骨法で描かれており、松園が鈴木松年、そしてその後竹内栖鳳のもとで四条派を学んでいたことを思い出させる。」（275文字）

（大森奈津子「上村松園 待月」福岡優子編（2015）『京の美人画 100年の系譜 京都市美術館名品集』京都市美術館監修，株式会社 青幻舎）

●上村松園について

「上村松園 うえむら・しょうえん 1875－1949（明治8－昭和24）

京都に生まれる。本名津禰。京都府画学校で鈴木松年に学ぶが、師の退職に伴い退学。1890（明治23年）の第3回内国勸業博覧会で一等褒状。師の了解を得て、幸野棋嶺に入門。棋嶺の没後は同門の竹内栖鳳に師事。1907（明治40）年の文展開設以降、京都画壇を代表する美人画家として官設展で活躍。伝統絵画を踏まえながら自己の人生体験を加えて、日本に生きる女性の真実と理想の姿を描いた。1948（昭和23）年、女性初の文化勲章を受賞。」（243文字）

（山田論「上村松園」美術館「えき」KYOTO，京都新聞編（2018）『京都市美術館所蔵品展 描かれた“きもの美人”』京都新聞）